



家族の協力で進む馬鈴薯の植付け作業

雪解けが遅く、低温が続く天候で、農作業の遅れが心配されていますが、畑の土もようやく乾き、本格的に、戸外での農作業が始まりました。

高台は本村の畑作地帯であり、てん菜、馬鈴薯、豆類などの作付けが多い地区です。

五月五日、春のさわやかな天気のため、高台地区では農家の皆さんが、てん菜の定植や馬鈴薯の植付け作業を行う姿があちらこちらで見られました。

香川の上埜則雄さんの畑でも、男爵いもの植付けが行われており、今年も、二・五畝の作付けを行い、八月下旬には、収穫が始まる見込みという事です。

この日は、学校も連休中とあって子供さんも協力して、家族総出の作業が続いていました。

農家の皆さんの努力が報われ、消費者においしく品質のよい洞爺村の農産物がたくさん届く豊穡の秋となることを期待しています。